

- 事件史料・元県官履歴・知事更送書類・管下布達および県報等
- ② 県治—一区戸長制・市制町村制下の戸長・連合戸長・町村長任免・市町村合併・県会・町村行政に伴う条例の制定改廃等
- ③ 土木—明治期の道路・船橋・橋梁・馬車鉄道・鉄道等の交通関係資料・災害復旧工事・官有建物の営繕関係等
- ④ 学務—学制頒布以後県教育行政資料として

- の県立学校・管下小学校の創立や教員の任免等
- ⑤ 旧県—明治4年以前の浦和、大宮県、忍、岩槻藩（県）関係等
- ⑥ 勸業—明治前期の勸業統計、士族授産、明治・大正期の小作慣行調査・小作争議、産業組合・同業組合、耕地整理関係等（あさみ・としじ：埼玉県立浦和図書館埼玉資料係長 もりた・ゆういち：同古文書係長）

山形県下の特殊コレクション

山形県における図書館のうち、公共図書館13館あるが、特殊コレクションの数は少ない方である。

酒田市立光丘図書館（酒田市日吉町2—7—71）は、旧光丘文庫が市立図書館に移管されたもので、珍書、典籍が多い。

幕末から、明治にかけて、博物学者、政治家として活躍した松森胤保（1825—1892）の松森文庫に、庄内地方の地方史、生物等の書籍が多く、『両羽博物図譜』は、山形県の文化財となっている。福利館蔵書は山形市佐藤利兵エの書籍1,437冊および、明治から大正にかけて山形地方の社会主義運動をした小松謙輔所蔵本314冊（山形県立図書館にも小松謙輔旧蔵本あり）がおさめられている。

江戸時代、庄内藩亀ヶ崎城、城代家老、松平武右衛門父子の記録、庄内藩日記、亀ヶ崎在藩御用留なども重要なものである。また遠藤宗弥の地方史のコレクション「如雲文庫」、また、岩波の『哲学辞典』の編者、伊藤吉之助（1885—1961）の、美術、ドイツ文学関係図書が創業期の岩波書店の図書を中心に2,000冊、大川周明（1886—1957）の没後、庄内地方の大川支持者たちによって、回教を中心とし

た図書、2,200冊が同館におさめられている。鶴岡市立図書館（鶴岡市馬場町4—7）

「楽之文庫」

博物学者、中村正雄のコレクションで、主として、植物、動物関係の書1,600冊がおさめられている。

「庄内史編さん会図書」

昭和のはじめから同19年まで、庄内地方の歴史を編さんする目的で収集、筆写された郷土資料和書432冊所蔵されている。以上は、鶴岡市立図書館蔵書目録に収録されている。

そのほか、庄内藩・酒井家の藩校、致道館の経書、史書等の漢籍366部6,895冊、昭和初期から14年まで山添村（現櫛引町）でエスペラント運動、ローマ字教育、方言研究と32才の短い生涯をおえた斉藤秀一（1908—1940）のコレクション、北海道史の編さんに従事し、山形県の史跡名勝天然記念物調査委員の阿部正己（1882—1946）のコレクション、慶応義塾大学図書館に長く勤務し先年なくなった国分剛二のコレクションも同館におさめられている。また致道博物館（鶴岡市家中新町）には、藩主酒井家より同館に寄贈された酒井家文書がおさめられている。

山形県立図書館（山形市七日町3—1—23）

池田成功（1902—1971）が英国留学時代からあつめたという洋蘭のコレクション、「池田成功洋蘭文庫」には、およそ300点1,000冊の洋蘭関係の資料がおさめられている。

「臨雲文庫」は結城豊太郎の収書で、山形県立図書館に4,000冊が寄託されており、経済、財政の図書および戦時中の敗政関係のものが多い（『臨雲文庫目録』昭和40）。そのほかのものは南陽市立図書館（南陽市赤湯）に所蔵されている。

鳥の標本の収集家で有名だった石沢慈島（1899—1967）の鳥類、昆虫に関する文献1,747点が山形県立博物館（山形市霞城町）におさめられている。

山形大学図書館（山形市小白川町1丁目4—12）

「佐久間文庫」は福島伊達三春で和算を教えていた佐久間成己、同広吉父子のコレクション542点1,276冊で、和算家会田安明の著作の本が多い（『佐久間文庫目録』）。

「高橋文庫」

哲学者高橋里美（1886—1964）の哲学関係の洋書1,954冊で、その内容の大部分は西洋哲学特にドイツ哲学関係のものが大部分をしめている（「高橋文庫目録」）。

「細谷文庫」

哲学者細谷恒夫（1898—1970）の収書で、哲学、教育哲学関係書、和洋書約2,000冊がおさめられている。

「松村文庫」

元衆議院議員松村光三（1882—1962）の収書で、社会科学関係洋書1,100冊。主として社会経済関係洋書が多い。

「三浦文庫」

元東京商大学長三浦新七（1877—1947）の収書に、山形県内の地方文書約3,000点がおさめられている。そのほか文書として 二藤

部文書等がおさめられている。

市立米沢図書館（米沢市丸の内1—1—55）

「米沢善本」

市立米沢図書館所蔵の善本をまとめたもので、2,138点ありこの中心は漢籍、国文関係のものが多し（『米沢善本の研究と解題』）。

「上杉文書」

昭和29年、米沢市が上杉家よりゆずりうけた5,062点、上杉家の所蔵した文書のうちの近世史料の大部分である。このうちには上杉藩御記録所で記録されたもの（林泉文庫一別出）の一部も含まれている。中世史料は別に上杉家事務所（米沢市）に保有されている、

「林泉文庫」

米沢の歴史家伊佐早謙（1857—1930）の収書の大部分で、昭和5年上杉家に献上されたが、昭和29年上杉家より市立米沢図書館が郷土に関係あるものの大部分1,322点をゆずりうけた。その収書の中には、山形県史編さん主任当時のものが多く含まれている、また一部は散佚し、山形大学、龍門図書館（西置賜郡白鷹町高玉）などにある（『林泉文庫目録』）。

「鶴城叢書」は米沢旧藩時代からの編さんされたものを筆写したもので、昭和5年から同23年までの間にまとめられたもので、現在226巻221冊にまとめられている。

そのほか、米沢図書館には、鷹山公手沢本286点、興譲館本24,363点等が別置されている。

以上大まかに山形県内にある特殊コレクションについてのべたが、昭和25年に散佚した、「曳尾堂文庫」、また「水野家文書」（都立大学）数学者小倉金助「小倉文庫」（早大図書館）、文部省史料館におさめられている近世史料、一橋大学にある三浦新七博士の洋書のコレクションなどがある。

（みはる・いさお：山形県図書館）